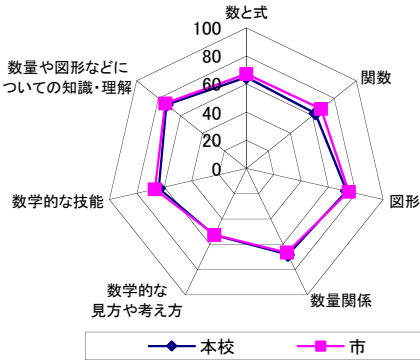


宇都宮市立陽南中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	64.9	67.1
	関数	62.8	67.9
	図形	73.3	74.7
	数量関係	68.3	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	52.8	52.6
	数学的な技能	63.9	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	73.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	本校の正答率は市平均を下回っている。数直線上に数をとったり、数の大小を不等号を用いて表す、また、かっこをふくむ減法の計算などの知識・理解に関する問題は市平均をやや上回っており、比較的定着しているといってもよい。市平均を大きく下回るのが、同類項をまとめる計算や分子が1次式である分数の乗法や分配法則の計算に問題がある。また、簡単な1次方程式も市平均を下まわっている。	・正負の数の基礎問題についてはほぼ定着しているが、記述問題や表を読み取るような考え方を問われる問題では課題が残ったり、中学校に入って新しく出てきた文字式の計算は、まだまだ定着が浅い生徒が見受けられる。計算の仕方を定着させるため、定期的な小テストを行って確認を積み重ねていきたい。 ・1次方程式の基本の計算では、文字式に関する理解も必要になるため、文字式と並行して、日々の授業の中に小テストを取り組んでいくのが効果的であると考えている。 ・文章題では「～をxとおく」「式をたてる」「解く」「確かめる」「答える」という流れをよく確認し、基本問題だけでなく、やや難しい問題について立式を考えさせたい。
関数	本校の正答率は市平均を明確に下回っている。比例の、反比例の式、比例のグラフ上の座標を求める問題ともに正答率が低い。値を代入するという作業を得意としない生徒が多く、今回の定着度調査においても、代入する問題では市平均を下回っている。グラフを理解することやグラフをかくことにおいても同様の傾向が見られる。	・比例と反比例の式の形を何度も確認し、合わせて代入の仕方なども復習していきたい。また、その関係を座標平面上に表したときにも、同じく代入の考え方が使えることや、グラフから判断できる内容も多いことを復習していきたい。 ・2年次に学習する1次関数の導入として、xとyの関係が具体的に比例、反比例など関数の内容を積み重ね指導していきたい。
図形	本校の正答率は市平均を下回っているものの、およそ7割の生徒が、拡大図について理解しているといつてよい。対応する長さを求める問題、拡大図を選択する問題ともに正答率は高い。	・平面図形、空間図形は現在学習している内容である。拡大・縮小の関係は小学校で学習している内容であるが、今後3年生になっても学習することなど授業中にふれておきたい。平面図形・空間図形では図形の公式を覚えていることが大切なので、確認テストなどを定期的に行なっていきたい。
数量関係	本校の正答率は何通りあるかなどの場合の数においては市平均を上まわっている。セットメニューが何通りあるかという問題の正答率が8割近い。考える力が十分であると考えられる。	・場合の数、資料の調べ方については、正答率が高いところであるが、記述問題になると正答率が低い状況であるので、授業の中で記述する場面を多く取り入れていきたい。